



～「地域学リポジトリ(仮)」の構築へ～ 県内学会と連携

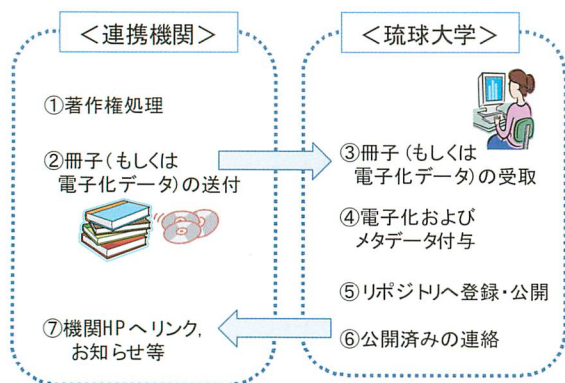
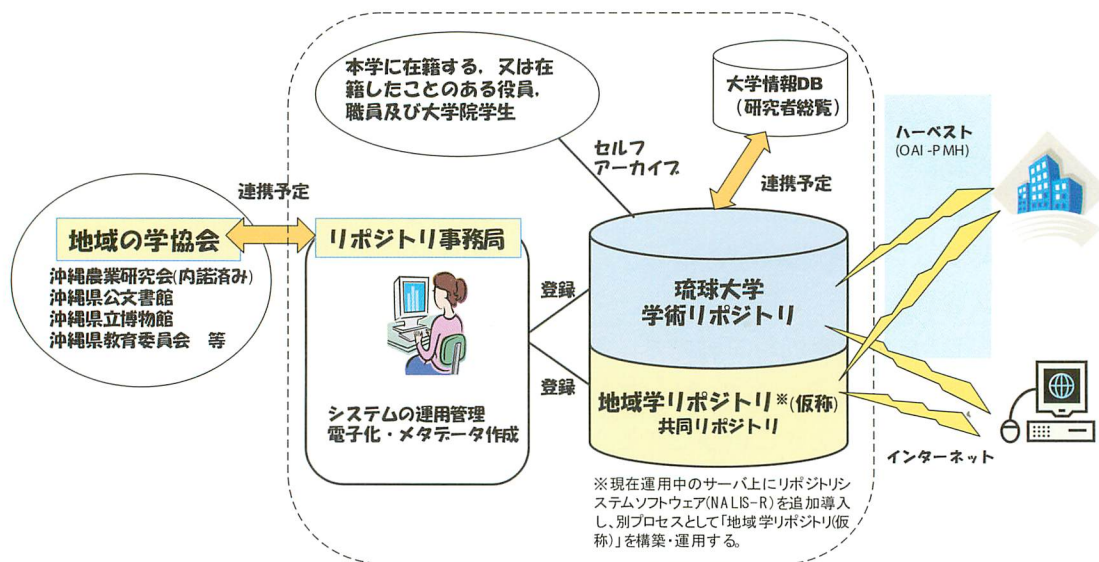
琉球大学では、学内の教育研究活動を「琉球大学学術リポジトリ」に保存・蓄積して、世界に無料で発信しています。

平成20年度からは、大学の枠を超えて、県内に所在する学術成果物の登録・発信を行う目的で、「地域学リポジトリ(仮)」の構築事業に着手することとなりました。最初の事業として、沖縄農業研究会

との連携協力のもと、次の論文誌を登録・公開します。来年(平成21年)2月頃に試験公開の予定です。また、他の県内関係機関との連携も今後進めていく予定です。どうぞご期待ください。

平成20年度公開コンテンツ(予定)

- ・『沖縄農業』創刊号(1962)～41巻1号(通巻54号)(2007)



△公開までのおおまかな流れ



△沖縄農業研究会ホームページ

目次

- 1 「地域学リポジトリ(仮)」の構築へ～県内学会と連携～
- 2 琉球大学学術リポジトリへのお誘い
- 3 琉球大学学術リポジトリのあゆみ
- 4 ノンフィクション見聞録

- 8 2007年度新収蔵沖縄関係資料の紹介
- 10 図書館トピックス
- 11 お知らせ
- 12 第2回びぶりお文学賞 原稿募集

もうすぐ
運用開始から
1年!

琉球大学学術リポジトリへのお誘い

「琉球大学学術リポジトリ」とは、本学の学術研究成果等にオンラインでいつでも誰でもアクセスすることができるように、琉球大学が責任を持ってこの学術研究成果等を収集し、蓄積し、公開するなどの運営を行うサービスです。平成19年3月に試験公開し、11月16日から正式運用を開始しました。みなさまのご理解とご協力を得て、正式運用からもうすぐ1周年を迎えます。



◎琉球大学学術リポジトリのメリット

琉球大学学術リポジトリで学術研究成果を公開することには、以下のようなメリットがあります。

可視性の向上

Googleなどの検索エンジンにヒットしやすくするための「情報」を埋め込みます。これにより、多くの人々の目にふれる可能性が高まります。商業出版社が提供する電子ジャーナルを利用できない方にも研究成果を届けることができます。

研究成果の保存・管理

個人の電子書庫としての面も持ち合わせており、研究業績の散逸を防ぎます。

大学としての説明責任

本学の教育研究活動等を集約して国内外に発信することが促進されるようになり、ひいては大学の社会的説明責任を果たすことができますようになります。

◎研究成果を登録するには

次の2通りの方法があります。いずれの方法でも投稿が可能です。

1. オンラインで直接リポジトリシステムへ投稿する(セルフアーカイブ)

ユーザ登録が必要ですが、ご自身で投稿された研究成果へのアクセス数・ダウンロード数を確認することができます。

(<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/guide/guide.htm>)

2. メール、または学内便などで送る

「登録許諾書 兼 チェックシート」(<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/ir/html/siryu.htm>)を添えて、電子ファイルをリポジトリ事務局 (ir-wg@lib.u-ryukyu.ac.jp)へお送りください。紙媒体しかない場合には、図書館で電子化したしますので、学内便でお送りください。

※いずれの場合も、投稿後は即時公開ではなく、事務局で著作権の確認およびメタデータの付与を行った上での一般公開となります。出版社が認めていない版である等、公開できない場合があることを予めご了承ください。



琉球大学学術リポジトリ
→<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/>

琉球大学学術リポジトリについてのお問合わせ・登録のご相談は下記にご連絡ください。

→リポジトリ事務局(附属図書館企画グループ) 電話:895-8167 mail:ir-wg@lib.u-ryukyu.ac.jp



これまでのあゆみ

平成18年度

- 5月22日 学長名でNIIの「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に応募
- 11月10日 「琉球大学学術リポジトリ規定」および「投稿細則」を制定
- 11月30日 リポジトリ準備ページを学内公開。(2月6日から学外公開)
- 12月7日 リポジトリ学術説明会を開催(千原キャンパス・上原キャンパス)
- 12月22日 各部署局長宛てに投稿依頼文書を送付
- 1月23日 各紀要編集委員会宛てに投稿依頼文書を送付
- 1月～3月 リポジトリ説明会を開催(法文学部紀要委員会, 法文学部教授会, 理学部紀要委員会, 教育学部教授会, 農学部紀要委員会)
- 2月23日 学術リポジトリ国際講演会を開催
- 3月1日 仮サーバによるリポジトリシステム試験公開を開始

平成19年度

- 4月2日 本番サーバによるリポジトリシステム試験公開を開始
- 5月22日 リポジトリ説明会(21世紀COEコアメンバー会議)
- 7月1日 事務組織再編に伴い、情報サービス企画係が設置される

11月16日 リポジトリ正式公開を開始

公開記念講演会を開催

セルフアーカイブシステムを導入

- 11月29日 沖縄関係コレクション「ベッテルハイム手稿日記・公文書簡」を公開
- 12月～2月 リポジトリ説明会(セルフアーカイブ)

平成20年度

- 4月8日 「第2期次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」に応募
- 6月24日 沖縄関係コレクション「宮良殿内文庫」を公開

琉球大学学術リポジトリ

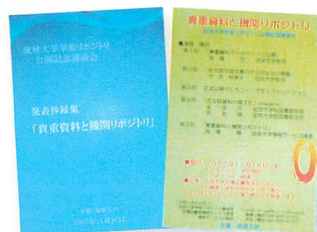
<http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp>

システムは、NALIS-R(NTTデータ九州)を使用。ロゴマークも含め、トップページを図書館職員が自力でデザイン化。説明会資料や関連規則、FAQなど、リポジトリに関する情報をすべて公開。



公開記念講演会

平成18年に大韓民国の延世(よんせい)大学校中央図書館と国際交流協定締結。国際講演会など学術リポジトリに関する相互の国際的な情報交換を行う。

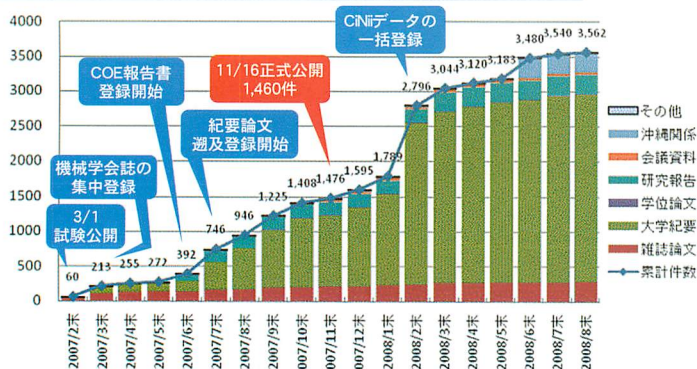


コンテンツ収録状況

21世紀COE報告書および学内紀要に重点を置き、各担当部署や紀要委員会へリポジトリ搭載および投稿規定見直しについて働きかけを行いました。

平成20年8月末現在の登録コンテンツ数は3,562件です。内訳は以下のとおりで、グラフはその増加傾向を表したものです。

学術雑誌論文	287件	会議資料	30件
紀要掲載論文	2,675件	沖縄関係コレクション	288件
学位論文	5件	その他	4件
研究報告書等	273件		



現在刊行中の学内紀要20誌中10誌が投稿規定を改定し、その他の紀要についても改定を検討中または発行時にリポジトリ掲載を奨励する、という協力体制を整備

沖縄関係コレクション

琉大図書館が所蔵している沖縄関係コレクションのうち、「ベッテルハイム手稿日記・公文書簡」および「宮良殿内文庫」を、解説など豊富な情報を追加してリポジトリに移しました。



ノンフィクション見聞録

この文章は、第1回琉球大学びぶりお文学賞受賞者の山原みどりさんに海外旅行見聞記を書いてもらったものです。

ボルネオの牛

第1回琉球大学びぶりお文学賞受賞

山原 みどり (法文学部国際言語学科4年次)

マレーシア、ボルネオ島から帰国して数日。わたしはそこから牛を連れ帰ってきてしまった。静かな黒い目をしたおおきな、美しい牛だ。

欧米旅行で何か学んでくるにはその下準備として多少なりとも文化的な知識を身に付けていかなければならない、しかし三月までについてこないといけないとなるととてもそんな時間はない。おまけに向こうはおそろしく寒そうである。それならばいっそのこと目的地を大きく変更して自然を感じる旅にしよう。そう思って選んだのがボルネオ島だった。インドネシア、ブルネイ、マレーシアの三カ国に分割された世界第三位の大きな島。有名なのはオランウータンで、その保護区がいくつか設けられている。また、テングザルといって世界中でここだけに生息する、天狗のような鼻が垂れ下がった珍しいサルを見ることも出来る。ジャングルを流れる川をクルージングすることも出来るし、運がよければ世界一大きいというまぼろしの花、ラフレシアも見られる。自然を感じるには絶好の場所だ。それに他のアジアの国を訪れるのは初めてだ、ということで、なかなか和らがない沖縄の寒さに震えながらこの時期、平均気温30度近くという暖かな島へ思いをはせその地に赴いた。

けれど暖かい気候は良しとしても、「自然を感じるため」とは今思えばなんて浅はかだったろう。その証拠に自然それ自体ではなく、その中に居るときに感じた「悲しい視線」の方がわたしの記憶に色濃く残ったのだった。

到着の翌日、海辺の市場を見て回った。(到着したのは夜中の1時過ぎだった。)見たこともない、味や食感の見



■ラフレシア (世界一大きな花)



■テングザルを探すリバークルージング

当もつかないような果物や菓子パン、焼き菓子の様なものに混じって、日本・沖縄と共通の食べ物もかなりあった。マンゴーや生姜、サトウキビ、それに海産物の干物なんかがそれで、中には「くんぺん」そっくりなお菓子もあった。現地住民の生活の雰囲気を感じながらそういうのを見てまわるのはとても興味深かった。それに、慣れない人にはただ臭いと思われるであろう独特のにおいがしていたのだが、驚いたことにそれは故郷の島の港のにおいとよく似ていたのだ。潮と、腐れかかった魚、それから生活廃水の混じったにおいが、海風によってねっとり、体中にほとんど隙間なく張り付くようなあの感じ。外側だけではなく、口の中、食道、肺、すべての器官にびったりと。とてもなつかしい気持ちになった。

けれど一方では気持ちが急激に落ち込んでいくのを感じていた。ひとつには、市場の人たちの目があつたのだろう。彼らは皆とてもきれいな目をしていて、しかしある人

は話し掛けるとその美しい眼に戸惑いの色を浮かべたし、ある人はぼおっと、でも決して視線をそらすことなくこちらを凝視していた。私たちはこの場に溶け込んでいないのだ、と否応無く感じさせる目だった。

この眼がそれから後、美しい牛のそれに姿を変えて旅の間中わたしにつきまとうことになるなんてことは、その時思いもしなかった。

牛がはじめて姿をあらわしたのは、ラフレシアという世界一大きな花を咲かせる植物を見に行った、ある村でのことだった。大きいものでは直径一メートルを超えるという、この「まぼろしの花」を見るために私たちは村人に寄付金として三千元ほどを支払わなければならなかった。ペンキの色褪せた水色やピンクの高床式住居が湿地帯にぼつんぼつんと立っている静かな村だった。緑がかった水色の、古い木造家屋の張り出しになったテラスでは洗濯ロープが、着古した服の重みでだらりとたるんでいた。赤と白のギンガムチェックのワンピース。その家には小さな女の子がいたのだろう。穏やかに良く晴れた日で、足元の白いスニーカーがまぶしかったが、それはその湿った土を踏みしめるたびにぐちょぐちょと茶色く汚れていった。

その同じ土の上に、牛はいた。一目見て息を呑んだ。なんてきれいな。牛を見てそんな風を感じたのはそれが初めてだった。だいたいわたしは昔から大きいものが恐ろしくて仕方がない。動物園にいった日の夜は決まってキリンやシマウマが夢に出てきてその後は眠れなくなってしまう。故郷の島にある「帯岩」と呼ばれる（その昔大きな津波によって運ばれてきたという）ほとんど切立った崖と言っているほどの大岩も、小さい頃一度目にしただけでもうたくさんというほどである。それまで牛などは恐怖の対象以外の何者でもなかった。そのわたしが牛を美しいと思った。それは、その目のためだと気がつくのにそう



■市場の様子

時間はかからなかった。あれほどまでの黒をわたしは他に知らない。ほんとうに深い深い、くろぐろとした黒、なのである。その黒を縁取るなめらかな線。これは美しい女の人なんだ、とほとんど直感的に思っていた。牛はじっとこちらを見ていた。何故かひやりとした。

世界一大きな赤い花は、花というより毒キノコのようなようだった。木の柵に守られた向こう側にでん、とあって咲いているというより地面からよきりと顔を出していると言ったほうがしっくり来る感じだった。それはただそこに、そのままに、あるのだった。なんだか写真を撮るのがはばかられた。それほど「ただそこに咲いている」のだった。

それからというもの、この牛は自然豊かなこの島特有のテングザル探索や、世界遺産に登録されたキナバル山内の散策と、滞在中わたしの行く所ならどこにでも現れた。ふとした時に静かに現れては何時の間にかそっといなくなった。何をするわけでもない。ただその美しい眼で遠くからじいっと、見つめているのだった。けれどついにこの牛の正体を知ることのないまま旅行の日程は終わりに近づき、1週間後、わたしはなんとなくほっとしながら帰国の途についた。

帰国後、帰省をしたわたしは母を手伝って毎日のようにキビ畑で草をむしっていた。旅の後でしかも久しぶりの故郷はとても嬉しく、わたしは生い茂ったキビの葉の間に居て大張り切りだった。

わたしはキビ畑の中が好きだ。そこは閉ざされた空間とでも言うべき所で、妙に思考が冴える。完全にひとりの世界で、作業もはかどる。そこでどんどんどんどん抜いていく。

草はとても憎らしく、みにくく、力強い。そのままなのだ。あと少しもう少し、あの辺りまで、と常に遠くなり続ける目標を目指し続ける。まったくキリがない。抜かれる草、草草、草、草、その繰り返した。

ざわざわざわっと風が吹いていった。

ふと集中力が切れ、見まわすと、窒息しそうな海の中、まるでひとり取り残されたように思えて怖いような気持ちになった。静かだった。ねっとりとした湿っぽい空気につつまれていると、あの視線を感じるような気がした。まさか。ここはもうボルネオではない。その時、再び強い風が吹いた。バサリ、という音に振り向くと、畑の後ろに牛小屋があって、ブルーシートの裂け目からぴかぴか光る黒い目がじっとこちらを見つめていた。

居たのだ。

土のおいと静けさのなか、一頭が苦しそうに鳴いた。しかも鳴き止むことなくうー、うー、うーと苦しい叫び声をあげ続けた。何頭もの牛の大きな身体。め。め。め。め。め。あの目。わたしはたまらなくなつて視線をそらし、草むしりを続けた。

ずぼり

ずぼ

ずぼり

ぶちっ

追い立てられるように。止まってしまっではいけない、後ろからやってくる。早く早くもっと早く。なん
であんなに大きいんだらう。

ずぼっ。うー、

ああ、あそこにも 憎
たらし

い

草が！

ずぼっ。うー！

ほら、そこにも！

ずぼっ。うヴおー！

向こ

うに

も

ずぼっ。ヴおー！！

—そして、め。

なんということだらう。顔をあげるとそこに穏やかな目をした真っ黒い牛が立っていて、わたしはその
角で一突き、殺されてしまうかもしれなかった。

—おおきな、まる。

牛の瞳に見据えられたとき、わたしが感じていたのは焦りや寂しさだったのだらう。それは世界とい
う大きな大きなまるから除外されているような。ものすごい孤独感で、わたしはその時世界の端にやっ
としがみついていた。

その時母の聲がした。

「もう、帰ろう。」

なんて声だろうと思った。

それだけでもうわたしは立ち上がれるのだから。—世界の端で。



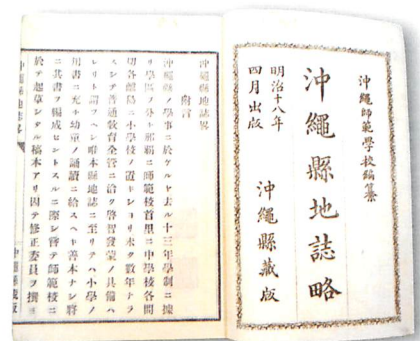
新収蔵沖縄関係資料の紹介

1. 沖縄県地誌略 全

明治18年 沖縄師範学校編 縦23.3×横16 42枚

沖縄県蔵版 活字本

小学校向けの地理教科書。沖縄師範学校によって編集された。本書の構成は、総論・本島・中頭・島尻・属島・両先島・地名読例からなる。冒頭には、沖縄県令の西村捨三による附言がある。



△沖縄県地誌略 全

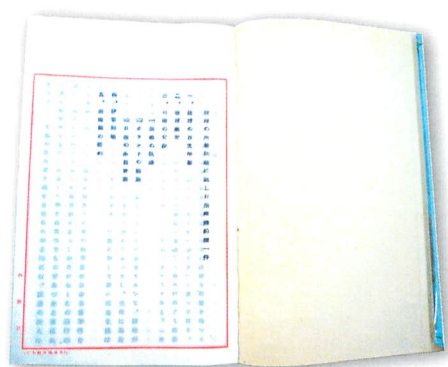
2. 球案(内題:琉球の所属問題に関し日清両国紛議一件)

渡辺秀氏述 外務省用箋にタイプ 縦25.7×横18 65頁

未綴で「別紙第二号 明治24年3月23日 日清館談話筆記」(8枚)添付

琉球の所属問題に関する外務省の内部資料原本。

内容は「一 琉球の日支両属」、「二 琉球処分」、「三 日清の交渉」、「四 伊犁問題」、「五 清国側の破約」からなっている。手書きによる補筆あり。



△球案

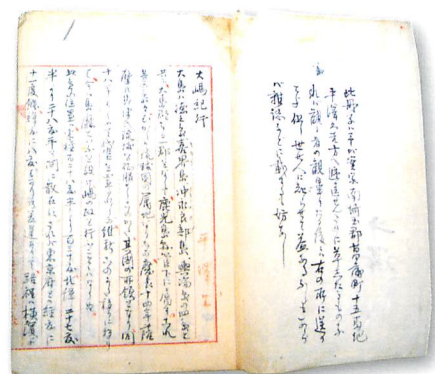
3. 大嶋紀行

平澤生 明治26年8月 鹿児島県師範学校 縦24×横16.7

写本37丁

罫紙 地図及び挿画入

筆者が奄美大島での教員研修の講師として出張したおりの見聞録。民俗・植物・言語等を記す。新出史料。



△大嶋紀行

4. 周煌書軸 「忠孝」大文字及び漢詩文

縦99×横55(本紙部分)

周煌は尚穆王の冊封(1756年)に際して冊封副使として来琉し、帰国後に『琉球国志略』を編集した。この書軸は威風堂々たる大幅で県内に伝わる周煌書の中でも第一級のものである。

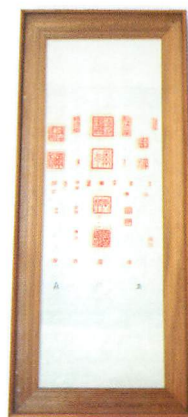


△周煌書軸

5. 鄭嘉訓・鄭元偉一族印譜(額装)

朱印譜39点 花押3点 1枚 縦106.5×横44.5(額込)

鄭嘉訓は19世紀初期の琉球を代表する書家で、すぐれた多くの書が現在でも沖縄県内や鹿児島に残されている。鄭元偉はその次男、太宰府天満宮に奉納された「徳高」の扁額(県立博物館所蔵)の作者で、19世紀中期の代表的な書家として知られる。久米村出身で二人とも久米村の最高官職である久米村総役(総理唐栄司)になったと伝えられている。鄭嘉訓・鄭元偉一族印譜はそうした書家で知られる鄭一族の印譜で、落款や遊印などの朱印や白印など種々の印影が収められている。中には三点の花押が含まれる。



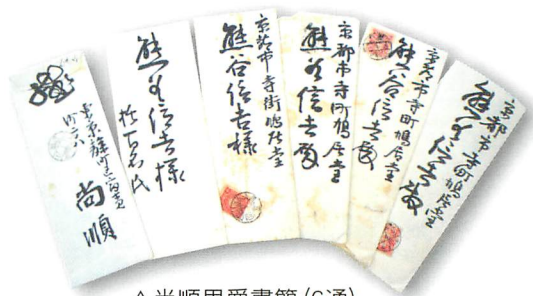
△鄭嘉訓・鄭元偉一族印譜(額装)

6. 尚順男爵書簡(6通)

明治44~大正7年 京都・熊谷信吉宛

尚泰王の四男で、沖縄随一の風流人といわれた尚順が京都の表具屋に送ったものか。

5通に消印があり大半は那覇か首里の消印だが、1通には「九段」とあり沖縄からではなく、東京より送られているのがわかる。



△尚順男爵書簡(6通)

7. 沖縄県初代大書記官 原忠順色紙幅 「赴沖縄船中作」

縦23.5×横18(本紙部分)

原忠順は初代沖縄県令鍋島直彬より藩政時代から重用された人物である。明治12年に沖縄県初代県令の代理として沖縄に赴任した。この紙幅は沖縄に赴任する旅の中で詠んだ漢詩であるとおもわれる。表具は新しい。



△原忠順色紙幅

8. 唐栄林氏婚姻家禮 写本3丁 昭和3年写 原本咸豊年間

縦27.5×横20 3丁

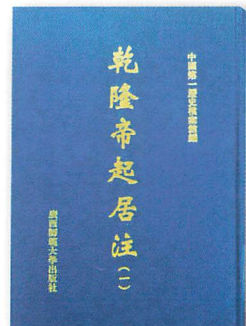
久米村の紫金大夫の職にあった林文海が、林家の婚姻に関する儀礼をまとめたもので、王国時代の久米村における結婚の相談から結納そして結婚に至る種々儀礼を詳細に記している。該文書は咸豊10(1860)年9月に撰述されたものを昭和3(1928)年に抄録した写本。



△唐栄林氏婚姻家禮

9. 『乾隆帝起居注』中國第一歴史檔案館編. 廣西師範大學出版社, 2002年. 全42冊

清代第6代皇帝の乾隆帝(1711~99、在位1735~95)の起居を皇帝近侍の官である起居注官が記録した日記体の官撰記録である。清代、琉球王国は二年に一度進貢使節を北京に派遣しており、また皇帝即位の際にも慶賀使節を派遣したりしている。乾隆帝起居注には北京紫禁城における、そうした琉球使節の謁見に関わる記録が収録されている。



△乾隆帝起居注

EU資料展を開催

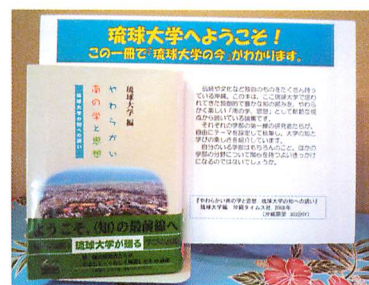
5月19日(月)から5月30日(金)までの間、本館2階情報ラウンジにおいて「EU資料展～遠くて近い国ラトビア～」を開催しました。これは、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好週間イベント「日・EUフレンドシップウィーク」の一環として企画したもので、欧州連合(EU)に関する理解を深めることが目的です。今回は、EU加盟国の一つであり、昨年3月に在那覇名誉領事館が開設されたラトビア共和国の紹介と併せて開催しました。地元紙にも掲載され、多くの方々に足を運んでもらいました。



企画展コーナーを開設

本館ロビー正面に「企画展コーナー」を開設しました。このコーナーでは、約2か月毎にテーマを変えて、利用者みなさまへオススメする本等を紹介しています。展示されている本は借りて読むこともできますので、どうぞご利用ください。

- 5～6月「図書館オススメの本～新入生のあなたへ～」
- 7～8月「環境展:みんなで考えてみよう」
- 9～10月「作家にチャレンジ! びぶりお文学賞大募集」



常設展示室がオープン

本館1階多目的ホールの奥に、常設展示室を設置しました。これまで附属図書館では、大学の地域貢献、地域連携の一環として学外での貴重書展を毎年開催していましたが、図書館内に常設展示室を開設したことにより、学内の教職員・学生の方々に、気軽に何時でも貴重な資料をご覧いただけるようになりました。



高校教諭10年目経験者研修生2名を受け入れ

7月から8月にかけて、大田先生(北谷高校)、平川先生(球陽高校)の2名を受け入れ、5日間にわたり図書館業務を経験してもらいました。その内容は、(1)資料の整理業務、(2)カウンター業務、(3)ILL業務、(4)情報リテラシー教育、(5)リポジトリ業務、(6)意見交換(高校教育の場としての学校図書館活用ほか)等です。研修後の感想では、「今回の研修で、図書館の持っている可能性を目の当たりにしました。図書館が持っている知識や情報は、利用者に還元されて初めてより生きるといふこと。そのためには、図書館から積極的に周りに働きかけ、活用の手だてを伝えることが大事であるということ学びました。図書館の取り組みの先には、必ず利用者がいる。5日間の研修で常に感じた事でした。」との感想がありました。



図書館見学

平成20年4月～9月

訪問日	見学者
6月16日	琉球大学シニアカレッジ 22名
6月12日・7月4日	教育学部附属小学校2年生40名 図書館探検
7月9日	教育学部附属中学校2年生28名 総合学習 ※医学部分館
8月20日	沖縄県立本部高校1年生43名 キャンパスツアー
9月10日	宜野湾中学校1年生10名 総合学習
9月11日	沖縄県立宜野座高校32名 図書館見学



△琉球大学シニアカレッジ



△附属小学校「図書館探検」

当館資料の放送取材刊行物掲載

放送・発行日	番組名・書名	提供資料
2008年7月	ポーターインク 『歩いてみよう!おきなわ軽便鉄道マップ』	西脇昌治文庫「ALBUM1」より「琉球風景 與那原驛」
2008年9月	東洋企画印刷 新城俊昭著「ジュニア版 琉球・沖縄史」	ブル文庫より「琉球女性の手の刺青」
2008年9月30日	テレビ東京「新説!? 日本ミステリー」	仲原善忠文庫より「琉球神道記」

本館

10月 October 2008							11月 November 2008							12月 December 2008						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1		1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			
							30													

1月 January 2009							2月 February 2009							3月 March 2009							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					

医学部分館

10月 October 2008							11月 November 2008							12月 December 2008						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31			
							30													

1月 January 2009							2月 February 2009							3月 March 2009							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	
25	26	27	28	29	30	31								29	30	31					

開館時間 通常期 月～金[黒](Black)8:30～22:00 土・日・祝[緑](Green)10:00～20:00 休業期 月～金[青](Blue)8:30～17:00 土・日・祝[赤](Red)休館(Close)

本館だより

平成20年5月26日

第259回 附属図書館運営委員会録

○審議事項

1. 平成19年度決算(案)について
2. 平成20年度予算(案)について
3. 学術情報基盤資料の整備について

○報告事項

1. 中期目標・中期計画、平成20年度年度計画について
2. その他

平成20年9月30日

第260回 附属図書館運営委員会録

○審議事項

1. 次期中期目標・中期計画について
2. その他

医分館だより

平成20年8月28日

第64回 医学部分館運営委員会録

○審議事項

1. 学術情報基盤資料の整備方針について
2. 平成20年度で削減された図書館経費の医学部関連電子ジャーナルについて

○報告事項

1. 夏季休業期の開館時間延長について

講演会「情報リテラシー教育と図書館」案内

情報リテラシーを育む「教育の場」としての図書館サービスの開発に挑戦している明治大学図書館の取り組みは、平成19年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に採択されました。その活動の一端を、関係する方々に語っていただきます。

日時：10月10日(金) 午後3時～5時

会場：附属図書館1階多目的ホール

講師：広沢絵里子氏(明治大学図書館副館長)

飯澤文夫氏(明治大学図書館事務長)

※予約不要。どなたでも参加できます。

貴重書展開催案内

「文献資料にみる琉球・沖縄 in 豊見城」

開催日 11月11日(火)～16日(日)

場所 豊見城市立中央図書館

住所 豊見城市字伊良波392

電話 098-856-6006

※多くの方のお越しをお待ちしております。(入場無料)



びぶりお文学賞

原稿募集

君も未来の芥川賞作家

本学はこれまで2名の芥川賞作家を始め文学各界で活躍する人材を多く輩出してきた大学です。文学活性化をさらに図るため昨年創設したびぶりお文学賞を今年も募集します。

現代を切り開く意欲的な作品をお寄せください。

本賞は本学が基本目標として掲げる「地域及び広く社会に貢献する人材」「意欲と自己実現力を有する人材」育成の一環として、言語力（読む力、書く力）を向上させ、想像力、表現力、創造力豊かな学生を育成するとともに、文学の啓蒙活動を高め、地域社会における文学・文化活動のリーダーを輩出することを目的に琉球大学に在学する学生を対象に平成19年度に創設されました。

募集〆切
発表

平成20年10月31日

平成20年11月28日（予定）

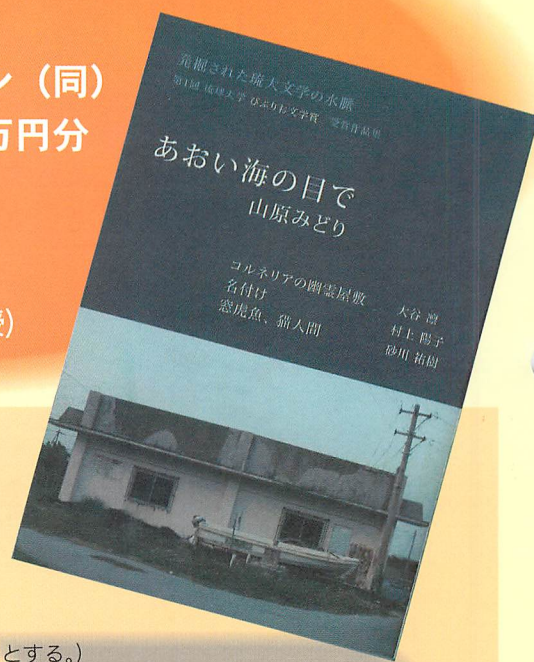
受賞作1編 → 海外旅行（20万円以内）
もしくはノート型パソコン（同）
佳作3編 → 1編につき図書カード5万円分

[選考委員]

仲程 昌徳（法文学部教授）

山里 勝己（法文学部教授）

喜納 育江（法文学部准教授）



応募要領

- ジャンルは小説とする。
- 応募資格
本学の学生（大学院生、留学生を含む）。
- 応募方法
 - ・ 一人 1編
 - ・ 応募原稿は未発表作品に限る。（同人誌などにすでに発表したものは選考の対象外とする。）
 - ・ 原稿枚数は、1ページ30字×40行、17枚（400字詰め原稿用紙50枚相当）以内。A4版横長用紙にタテ書き、10ポイントのワープロ文字で印字する。
 - ・ 必ず通し番号（ページ番号）を入れて右肩を閉じる。
 - ・ 必ず1枚目にタイトル、氏名を明記する。ペンネームも可。
 - ・ 原稿の末尾に、住所、電話番号、氏名（本名）、学部・学科（大学院の場合は研究科）、学年を付記する。（個人情報に応募に関する連絡以外には使用しない）
 - ・ 応募原稿は返却しない。
- 送付先および問い合わせ
琉球大学附属図書館情報サービス課（担当：松原） 〒903-0214 沖縄県西原町千原1番地
電話 098-895-8697 mail: toshio@lib.u-ryukyu.ac.jp ※メールでの応募はできません。
- 受賞作品は、図書館報「びぶりお」と図書館ホームページに掲載する。著作権は琉球大学に帰属する。
- 事業の主管部局 附属図書館：ホームページ <http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp>